令和4年9月26日(月)通巻1803号　昭和47年12月11日第3種郵便物認可 毎週月曜日発行(第5月曜日休刊)

2022年 9月26日 No.1673

週刊 教育資料

EDUCATIONAL PUBLIC OPINION　http://www.kyoiku-shiryo.co.jp

潮流 「こころ」のリテラシー教育を

メンタルケア学術学会理事長　別府武彦

資料

「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について(中間まとめ)

――中央教育審議会特別部会

CONTENTS

▶ 2 潮流
「こころ」のリテラシー教育を
別府武彦(メンタルケア学術学会理事長)

▶ 5 解説・ニュースの焦点
○コミュニティ・スクール導入率42.9%に増加
○採用倍率、小学校は2.5倍で過去最低に
編集部

▶ 8 特別企画
文化部活動の地域移行の課題は？
編集部

▶10 校長講話
成長や変容を後押しする言葉
関根郁夫(公立学校共済組合監事・埼玉県立浦和高等学校元校長)

▶12 生涯発達時代のよくわかる！発達障がい入門
ICT活用の理論と実践③
――ICTとの付き合い方「を」教える――
水内豊和(帝京大学文学部心理学科准教授)

▶14 君たちが18歳になる前に
現代は「二人前」で大人？(3)
――なぜ大人になりにくいのか――
安藤 博(子ども法学者)

▶16 実践！ 校長塾
「最上位目標」達成に皆の意識をそろえる③
髙坂英晃(長崎県・長崎市立梅香崎中学校校長)

▶19 資料
「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について(中間まとめ)
中央教育審議会特別部会

▶35 教育問題法律相談
教員研修の新たな仕組みの導入と留意点
三坂彰彦(弁護士)

▶36 学校事務新時代
自分らしく学べるために――子どもの生活環境を整えるために事務職員ができること①
学校と家庭の狭間で――事務職員の視点から
下里文子(沖縄県教職員組合中央執行副委員長)

▶38 「学級・授業づくり」虎の巻
NGな叱り方とOKな褒め方
俵原正仁(兵庫県芦屋市立山手小学校校長)

▶40 管理職養成　教頭実務ガイダンス
「教職員の不祥事」根絶に向けて
井部良一(全国公立学校教頭会事務局長)

▶42 高校現場最前線
生徒一人一人が主役になれる学校として㊦
岡田英樹(愛知県立加茂丘高等学校校長)

▶44 現場の課題に応える教育機関
授業づくり、学級・学校づくりを支援するツールを提供
江刺家且英(公益財団法人理想教育財団事務局長)②

▶46 英語教育羅針盤　最終回
英語教員に知っておいてほしいこと⑩
英語科における「主体的・対話的で深い学び」
杉浦理恵(東海大学国際文化学部教授)

▶47 BOOK
『過剰可視化社会　「見えすぎる」時代をどう生きるか』
『PTGと心の健康　傷つきを持った存在として生きるために』

▶48 自著を語る
『書けばわかる！
わが家の家計にピッタリな子育て＆教育費のかけ方』
前田菜緒(ファイナンシャルプランナー)

▶51 品川裕香の共感教室
自閉スペクトラム症なら本当に
「人の気持ちが分からない」のか？
品川裕香(教育ジャーナリスト)

▶52 マイオピニオン
教育イノベーションとしての小学校教科担任制
――昭和から令和への引き継ぎ――
天笠 茂(千葉大学名誉教授)

潮流

メンタルケア学術学会理事長

別府武彦さんに聞く

「こころ」のリテラシー教育を

「こころ」と向き合い、「こころ」を成長させるリテラシーを若い世代に育成しようと「こころ検定」や学校での授業を支援する活動を進めてきた。

心理学を学ぶ「入り口」に

日本学術会議の協力学術研究団体であるメンタルケア学術学会は、２００６年に設立された。学会というと大学の研究者などで作っているイメージがあるが、この学会は、カウンセリングを円滑に行うために精神科医や看護師、心理職やソーシャルワーカー、ケースワーカーなど、メンタルケアに関わる現場の人たちが連携を取るために設立された。メンタルケアを必要とする全ての人々に役立つ調査や研究を発表する場を提供している。また学会が認定する「メンタルケア心理士」「メンタルケア心理専門士」の実務能力を高めて、社会貢献するための研修の機会を提供している。

別府　メンタルケア学術学会は研究者や学生だけでなく、さまざまな社会で活躍されている社会人の方が大半を占めている学会です。誰もがどこでも、自分を知り、相手を理解するための「こころのリテラシー（能力）」である心理学を学び、日々の生活や社会、地域でのコミュニケーションに役立ててほしいという願いから、その学びの「入り口」となる仕組みが必要ではないか、との考えから、より教育という面に重点を置

いた「こころの検定」を2018年から実施してきました。

メンタルケア学術学会では、設立当初から臨床心理学の知識や技能を評価する「メンタルケア心理士」と「メンタルケア心理専門士」の資格試験事業を実施してきた。すでに資格保有者は1万人以上となっている。ただ、大学学部レベルの対象者だけでなく、さらに若い世代、中学生や高校生などが学べる心理学の評価検定が必要との考えから、中学校卒業程度を対象とする「こころ検定4級」と高校卒業程度を対象とする「こころ検定3級」を設けて、「こころのリテラシー」育成や「こころの教育」に役立ててもらうことにした。この「こころ検定」は文部科学省後援事業の認定を受けた。

外国では、心理学を学ぶ教科などを設置している学校もあるが、日本では、科学的に「こころ」を理解し、相手の「こころ」に向き合い、行動できる人間を育てることを目的としている教科はなく、道徳や一部の学校での「市民科」の試み、さらには総合的な学習の時間や「探究」などの中で扱うことがある程度にとどまっている。

別府　「こころ検定」の1級はメンタルケア心理専門士、2級はメンタルケア心理士の資格が取得できますが、3級と4級は、中学生や高校生、さらにはもっと若い人たちでも勉強ができて、心理学に触れるきっかけにしてほしいと思っています。当初はカウンセラー養成の認定試験としてスタートしましたが、専門家に任せるのではなく、自分の「こころ」について自分で理解し、適切な行動が取れるように心理学の基礎を学ぶ機会になるように「検定」にしました。

心理学の基礎と応用を学ぶ

「こころ検定」は、基礎心理学を学ぶ4級・3級と、応用心理学を学ぶ2級・1級に分かれている。例えば、4級では「こころと向き合う」ことを目標に、学習、社会、知能、認知、知覚、生理、感情の学習領域としている。まずは、「自らのこころについて理解を深める」というもの。3級は、「こころを成長させる」ことを目標に、発達、パーソナリティ、教育、適応、検査の学習領域の知識・技能を身に付けているかを評価する。4級と3級は、独立した内容になっており、両級に合格することで、基礎心理学の一定の知識を学んだことを証明している。

別府　「こころ検定」は誰もが受検できるようにしていますが、最近は、学校などで団体受検するケースも増えてきました。子どもたちや先生など、学校での人間関係のトラブルや問題は、ほぼ「こころ」に関係しています。例えば、いじめ問題なども、相手の気持ちを理解し、共感することで状況が変化することも可能かもしれないですし、心理学の知識があることで、自分や相手の「こころ」のダメージや苦しみについて、科学的・客観的に理解できるようになります。先生にとっても、教育心理学を改めて学び直すことで、子どもへの接し方や学習態度についての理解が深まり、学習環境づくりや指導の在り方を改善することにつなげることができます。

メンタルケア学術学会では、より若い世代に心理学を学び、「こころのリテラシー」を高めるために「こころ検定」を活用してもらえるように、公式テキストや対策問題集なども提供している。

例えば、4級用のテキストでは、学習心理学や認知心理学など、心理学の基礎的な分野の基本概念や、実際の心理面での応用など、分かりやすいイラストや実例で説明しており、小学生でも漢字が読めるようにルビを付けている。

別府　「こころ」について若い頃から学ぶことは、学校の生徒にとっても自分の「こころ」の働きを科学的に知り、相手の「こころ」を理解できる能力を備え、その後の人生においてもメンタルを上手にコントロールし、より生きやすくなることにつながると思います。心理学は日常生活や生き方に関わる一つの学問です。誰もが、幼少期から毎日の「こころ」の状態について意識していくことができれば、社会全体が大きく変わり、より生きやすい社会になるのではないでしょうか。

学校で授業に活用する例も

「こころ検定」を学校で集団受検するだけでなく、授業などに取り入れている学校もある。例えば、通信制高校の一つであるクラーク記念国際高等学校仙台キャンパスでは、「こころ検定」の団体受検だけでなく、授業などで心理学を学ぶ機会を設けているという。心理学の基礎理論を学ぶとともに、その具体的な事例の研究やミニ実験なども行いながら、なぜそのような理論が生まれたのかをグループで考えさせる「探究型」の授業を実施。高校生の中には心理学に興味を持っている生徒も多いが、ほとんどが心理テストや自分自身の関心や興味にとどまりがち。このため「こころ検定」の教材などを活用して、より広い視点から心理学を学べるようにしている。

別府　今のところ、「こころ検定」を学校で団体受検しているのは、通信制の高校が多いです。検定にパスすることも目標になりますが、心理学を通して、自分の生活や友人との関係を考えたり、さらに心理学を将来の職業に活かしたりするなど、キャリア教育の一環にしたり、「探究」などの題材にしているところがあります。既存の教科では心理学そのものを教えるのは難しいのですが、カリキュラムを一人一人の生徒の興味などに合わせて工夫している学校では、授業などがやりやすいのかもしれません。

「こころのリテラシー教育」の機会をさらに多くの学校に広げてもらおうと、今年の4月から「こころ検定3級・4級」で扱う「心理基礎」の内容や検定の概要、検定に対応した学習方法やその事例、質疑応答など、学校関係者を対象とした「オンライン説明会」（60分）も実施してきた。10月以降も本年度末まで4回の実施予定があるという。

また、メンタルケア学術学会の今年の大会（10月予定）では、4月から8月に実施したオンライン説明会に参加した学校の先生を招待して、学会会員の発表や各領域の専門家・臨床家との情報交流などの機会を設ける予定だ。

別府　「こころ検定」は、心理学の基礎的な知識を評価する検定です。極端な話ですが、中・高校生よりも小学生、さらには幼児の時期から、「こころとはどういうものか」を理解する機会は必要ではないかと思います。

いじめや不登校、自殺など、周りとの人間関係のもつれや自分を肯定的に捉えられないことが、さまざまなトラブルの要因になったりします。「こころ検定」の受検にまで至らなくても、公式テキストやＹｏｕＴｕｂｅの「こころ検定」チャンネルなどで10分程度の解説動画も視聴できますので、ぜひ授業などで活用していただくとともに、教育委員会などで先生方の研修などに活用していただければと思います。できれば子どもたちだけでなく、学校の先生方も一緒に、「こころ」のメカニズムを学ぶ機会になればと願っています。

メンタルケア学術学会＝https://www.mental-c.com/

こころ検定＝https://cocoroken.jp/